

- テーマ**
- ① AI・IoT等の活用
 - ② 地域産業を支えるAI等の先端技術に精通した人材の育成・確保

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

- テーマ①**
- 地域産業への貢献度を考えターゲットを絞り込んで取り組むことと、成功事例の情報共有をすることが重要
 - 現状の要素技術では、漁業が抱える根本的な問題を解決することは困難
 - 水産のICT導入は浸透していない

- テーマ②**
- センシング、ビッグデータ解析の入門的な内容で受講対象を広げたオンライン研修の実施を準備中
 - ITコーディネータの無料派遣事業、設備購入補助事業、セミナーや研修会開催支援
 - 人手不足、企業収益の停滞/減少

- 共通**
- 地域をあげた取り組みとなっていない

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)	今後の推進方向
AI/IoTを活用したサービスの探索研究	「檜山スマート農業振興研究会(檜山振興局独自事業)」で施設園芸を糸口とした技術的な支援を実施
食品加工ラインのAI検査ロボットの開発	AIを活用したスマート交通の地域展開
定置網漁業/養殖生産システムの効率化研究	「スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略事業(内閣府)」により函館・道南エリアの開拓及び支援を目指す
化粧品/化学メーカーとの共同研究	定置網におけるクロマグロ混獲改善
施設園芸におけるスマート農業の推進	国などの支援制度の活用
AI・IoTを活用した病害虫防除の高度化	
R1年度DESIGN-I(文科省)の申請(海洋をテーマ) →採択に至らず	
各種補助金の申請支援 / 学生の地元定着支援	

議題3.道への要望

	要望内容
1	災害時の緊急交通システムとしての可能性も大きいスマート交通のオンデマンドAI自動配車システムの地域実装支援
2	漁船漁業に関する研究支援
3	国の予算を積極的に獲得するための支援体制づくり(道内企業と大学/高専間を結びつける活動、予算獲得のための戦略と共同体づくりの支援)
4	各種支援制度の情報一元化
5	成功事例の情報共有(他地域を含む)

関連する情報

テーマ①

- オンデマンドAI自動配車システムの地域実装については、(株)未来シェアが地域実装に向け、取組中。
- ICTやデータを活用したスマート漁業に関して以下の研究が函館地域や全国で取組中。
 - i) 定置網の魚群探知機データをAIで分析し、魚種別ごとの漁獲量を予測【はこだて未来大】
 - ii) 過去の水揚データや衛星データから魚群来遊予測【北大】
 - iii) ICTを活用して、漁船から直接、漁場環境情報を収集する実証を開始【水産庁】
 - iv) ドローンの画像解析技術によるコンブ漁場の見える化【道水産林務部】

今後の取組の考え方(案)

テーマ①

- 自動配車システムの地域実装関係
 - 道から、関係者に対し、支援制度の情報提供を行う。
 - i) 令和2年度北海道IoT普及推進事業(補助金、道情報政策課)
 - ii) 北海道自動車安全技術検討会議(事務局は道産業振興課)
 - はこだて未来大は、ノーステック財団や他の大学等とともに、令和2年度産学融合拠点創出事業(経産省)に9月11日に採択され、その中で、「SAVSの地域展開とサービス連携」に取り組む計画であり、今後、取組を推進していく。
- スマート漁業関係
 - 関係大学等が引き続き、漁業者側のICT等活用に関するニーズ把握に努めるとともに、懇談会構成機関が、さまざまな機会を通じて、大学等の研究成果をPRして、地域への普及を図る。

テーマ②

- ビッグデータ解析などの入門的な内容のオンライン研修が予定されていることなどから、引き続き、はこだて未来大学や道立工業技術センターが中心となった人材育成に取り組んでいく。

テーマ	① ものづくり分野における生産の効率化・高度化
	② 航空宇宙産業分野への参入

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

テーマ①

- 支援機関、専門家、大学、金融機関などが一体となり、課題解決に向けた取組を支援
- AI、ロボットなどの導入費、コスト、体制が課題
- 生産性向上の取組に対し積極性が低い
- 成功例や利活用のメリットを紹介する機会の設置と企業への個別支援

テーマ②

- 産学官連携体制の構築および航空宇宙分野参入により培ったコア技術の幅広い展開の支援(認証取得、施策、製造プロセス改善)
- ISO9001の取得などベーシックな取組に至っていない
- 地元企業と発注側企業のマッチングが必要
- 航空宇宙産業の参入増に向けた取組を進めるべき
- 自発的な動きのみならず、行政からの働きかけが必要
- 航空宇宙産業用部材の製造は生産や検査体制の高度化が求められることから、参入を目標とした取組は航空宇宙産業以外の参入にもつながる

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)	今後の推進方向
「北海道MONOづくりビジョン2060」の具現化	新製品や新技術開発、生産性向上等についての支援を継続実施
航空機関連の支援の強化を実施	「超微細四次元X線CT解析装置」の導入と産学官連携による「新素材開発支援マルチプラットフォーム」の構築
新製品や新技術開発においては、新しい芽の育成支援を有効に活用	CCS調査からCCUSへのCO2リサイクル推進都市の推進による新たな産業起こしと地元企業の参入
材料評価・試験機器の利活用が多く、製造品の品質や生産性の向上、コスト削減などに貢献	地球温暖化対策に伴う石炭発電所の廃止に備えるとともに、水素を含む新エネルギーへの模索と電気料金の低廉化
I・Uターンの技術者に対し、再教育の研修会を実施	

議題3.道への要望

	要望内容
1	研究開発支援事業費補助金の維持、可能であれば増強
2	ものづくり分野における生産の効率化・高度化への支援
3	航空宇宙産業分野への参入支援
4	各地に存在する産業支援機関、研究機関が、地域性と北海道全体の最適化を考慮した在り方を再構築し、活動を向上させるための戦略的投資予算
5	先行投資としての科学技術振興予算の桁違いの増額
6	食糧基地北海道として国内外への移輸出と付加価値の創出のため、道内が一体化して役割分担した効率的、合理的な産業配置の構築のための調査、計画の策定
7	昨年度に科学技術振興課で要求した「先端技術活用事業化促進事業費」の再要求

関連する情報

テーマ①

- i) 道では、道総研や関係機関と連携し、AI・IoT、ロボット技術や生産管理・品質管理に関する研修会やセミナーの実施のほか、地域の産業支援機関にマネージャーを配置し、地域企業の先端技術導入や生産性向上等を支援
- ii) 地域の産業支援機関では、生産性の向上等に向けて、講習会、技術相談、技術指導等を実施

テーマ②

- i) 室工大航空宇宙機システム研究センターによる民間企業や大学等との共同研究
- ii) 室工大と大樹町のベンチャー企業によるロケット部品の共同研究の実施
- iii) 航空機産業参入支援事業(認証取得支援、製造プロセス改善支援、航空機部品試作支援)【室蘭市、室テク】
- iv) 北海道航空ビジネスネットワークによる航空機産業分野への参入を目指す道内ものづくり企業への支援【機械工業会、室工大、室蘭市、室テク、道総研、苫テク、道など】
- v) 道では、今年度、10月13日に室蘭市や室テクと連携して航空機関連産業参入促進セミナーを開催したほか、先進企業見学会、技術講座、JISQ9100等の認証取得支援、商談会出展などの取組を推進
- vi) 道内でロケットの開発・製造に取り組む企業と道内のものづくり企業とのマッチング機会を提供【道】

今後の取組の考え方(案)

- テーマ①**
- 道、道総研、関係機関は、引き続き連携して、普及啓発、相談対応、支援策への橋渡しに取り組む。
- テーマ②**
- 大学等は、関連する研究や、企業との連携に引き続き取り組む。
 - 関連支援機関は、地域企業の参入支援に引き続き取り組む。

- テーマ**
- ① 医工連携
 - ② 農林産品の高付加価値化

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

- テーマ①**
- 産学連携で、遠隔診断とドローンによる薬物輸送を組み合わせた実証実験を実施
 - 室内環境に着目し、地域差を考慮した熱中症危険度の評価指標構築の検討を実施
 - 産学でニーズとシーズについて商談、意見交換を実施

- テーマ②**
- 1～2次産業へ高付加価値を与える企業への支援
 - 道産カラマツやシラカンバを付加価値の高い建築部材や家具などとする技術の開発
 - 実需・加工・流通との連携が重要
 - 地域産品を使用した健康食品の検討

- 共通**
- 旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの研究交流・共同研究事業部会の充実を図り、各機関の研究者間の交流活性化の取組を進めている
 - 食などのサプライチェーンの再構築のための技術的課題の整理・地域連携の取組が必要
 - 地域のシーズに対する道外のニーズを調査(企業誘致につなげる)
 - アフターコロナの事業として注目される分野の新たな施策を構築
 - 地域懇談会では、ニーズやシーズの視点が旭川近郊や道内に限定しがちになることが課題

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)

旭川地域の特産品の高度利用化や商品化を行う共同研究事業を開始

上川や留萌振興局に設置の「地域農業技術支援会議」で課題発掘と対応を実施

地域の農業生産者団体等と技術普及や連携推進などを目的とした活動に参画

子供たちへの職場体験学習・作品展や、学生への製品開発コンペティション事業など科学的見識の拡大に寄与

生産・流通システムの構築やCLT(建築構造材)などの生産・加工技術の高度化

「旭川しんきん産業振興奨励賞」の募集、表彰

北海道知的財産情報センターサテライト無料相談の実施

今後の推進方向

地域の科学技術振興や産業振興に関する懇談会の開催(コロナ感染状況を考慮)

農業生産者、関係者、地域住民、および異分野の技術者等と連携し、地域の技術レベルの向上、人材育成を推進

先端技術(AI、IoT、ICTなど)の活用推進と技術の高度化

他機関や団体などとの連携や情報の共有化により地域の科学技術を振興

地域における知的財産や子供達の科学への興味・関心に対する啓蒙普及活動

地元志向を持った学生の育成、事業化支援のスキームを確立

議題3.道への要望

	要望内容
1	若手研究者の研究活動のため、例えば、ノーステック財団の「若手研究人材育成事業」の助成件数の増
2	販売戦略や経営視点の不足により事業化に至らないと考えられることから、ビジネス視点を有する研究技術者の育成資金を要望
3	イノベーション創出研究支援事業の研究費について、国における扱いに準じ、道総研に対する制約(研究費の上限ありなど)を解除
4	新製品等開発や研究促進、特許等出願にかかる、減免措置の上限・補助率の拡充
5	新製品を開発した際、北海道が積極的に製品を購入し、製品の活用状況を発信するなどのPRを実施

関連する情報

テーマ①

- i) 道では、ヘルスケア産業へのものづくり企業の参入に向けたセミナーを開催し、参入に向けたアドバイスや参入事例を紹介。機器開発等に関するアドバイザー派遣、道外展示会出展、医療現場ニーズの製品化に向けた発表会を実施
- ii) 旭川医大では、移植用臓器灌流保存装置の事業化に向けてR2年度イノベーション創出研究支援事業(道、ノーステック)を申請

テーマ②

- i) 北海道中小企業新応援ファンド等を活用し、食分野での新商品・新サービスの取組を支援するとともに、食のキーパーソンとなる人材育成を行う「地域フード塾」研修や、ヘルシーDo認定商品を創出【道】
- ii) 生産現場のデジタル技術利活用を推進する「スマートものづくり人材育成講座」の開催【旭川産業創造プラザなど】
- iii) 道総研による研究開発や旭川食品産業支援センター等による食品加工に関する技術相談、商品開発支援、各種情報提供
- iv) 「知財のミカタ～巡回特許庁 in 旭川」の開催による、「知的財産の視点からみる農林水産業について」の講演で、農林水産物のブランド戦略と知的財産の活用について紹介

今後の取組の考え方(案)

テーマ①

- 懇談会構成機関が協力し、研究機関等とのものづくり系企業との意見交換に取り組む。

テーマ②

- 道は、企業に対し関連施策の活用を促進していく。道総研、支援機関は、地域ニーズを把握し、支援策への橋渡しや研究テーマの設定を図る。関係機関が連携し、地域団体商標や地理的表示(GI)を活用したブランド戦略などの普及啓発を行う。

テーマ	① 食や農林水産業における科学技術の活用
	② 地域の産学官連携の強化による国資金等の獲得

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

テーマ①

- 農林水産業における生産効率を向上させるためには既存技術の採用だけでなく、地域の特徴を踏まえた新たな技術・機械の導入が不可避
- 一次産業現場の省力化が進んでいない
- 加工食品や農業機械などの新製品開発を支援してきた
- 「IT相談室」により、HP,ネット活用による販売拡大を促進
- 食品関連は多くの企業が小規模の家内産業。科学技術の施策は先端重視で現場にそっていない
- 農林水産業の現場にて必要な技術、機械等についてヒアリングや実地調査を最初に行うことが必要
- 一次製品の長期保存、高品質一次加工(新市場の対応につなげる)

テーマ②

- 企業が盛り上がる場所に重点をおき、技術を開発・保有する側と利潤を生み出す側をつなぐ仕組みを強化

共通

- 懇談会の情報を整理および課題抽出し、地域特性を活かした事業実施につなげるよう、支援、マッチング、コーディネイト機能を道が担い、けん引してほしい
- 小さな技術改良が科学技術振興の施策対象になっていないのではないか

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)	今後の推進方向
地域の特徴を色濃く反映した研究に取り組んでいる	カーリング競技支援にかかる研究活動を強化し、冬季スポーツの振興や国内外の冬季スポーツにかかわる団体の誘致や支援
健康食品をはじめとする新製品開発の支援を実施	機能性の素材や食品を目指した研究開発、農産物のブランド化に向けた取組を推進
ものづくり補助金の申請支援	事業者と関係機関(大学など)の橋渡しを実施
北見農業試験場などの公的機関への橋渡しを実施	
新技術・新製品開発や販路開拓を目的とした商談会出展の補助を実施	起業や起業間もない事業者を支援

議題3.道への要望

	要望内容
1	懇談会の情報を体系的に整理し、地域の科学技術振興による地域活性化に向けた課題抽出とそれら課題解決に向けた道における事業策定など、具体的な取組提案
2	道の支援による新技術の波及の仕組みが十分ではない。便利な技術や機器を知る仕組み(web上で発信など)、導入前に試す場が欲しい
3	小さな技術改良が可能となる仕組みが必要
4	現場が大学の技術を活用する際の支援制度
5	研究機関から技術を利用する側への発信強化
6	地域のシーズを集めて伸びしろの研究開発を支援、道や国の施策とマッチアップする

関連する情報

- テーマ①**
- i) 北見工大(CAFFE)が工学的知見による農林水産支援を実施
 - ii) 中山間地域の通信不感地帯において、衛星情報・センサ情報活用、自動操舵適用の実証試験を実施【スマート農業実証プロジェクト/JA津別、津別町、農研機構、農業改良普及センターなど】
 - iii) 北見工大とNTTドコモが連携し、5Gを用いた次世代トラクター制御システムを開発し、AI技術などにより、作物を避けて走行する自動制御の実現に取り組む
 - iv) 地元大学の研究シーズを活用した産学官連携によるICT産業創出プロジェクトの実施【北見市、北見市IoT推進ラボ】
 - v) スマート農業技術の戦略的な導入に向けた情報発信や人材育成を目的に「スマート農業導入事例調査」を実施し、中間報告を兼ねたセミナーを斜里町で開催【道】

- テーマ②**
- 内閣府の令和2年度先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクトに採択され、オホーツク地域で衛星データを活用して最適なサケ(稚魚)放流時期予測技術の実証に取り組むこととしている。【北見管内さけ・ます増殖事業協会、Digital北海道研究会、北大など】

今後の取組の考え方(案)

- テーマ①**
- 大学・試験研究機関等が協力し、引き続き、一次産業現場での省力化に関する研究などに取り組んでいく。
 - 支援機関等が中心となり、他地域の先進技術の導入事例の情報収集・提供を行う。
- テーマ②**
- 令和2年度の産学融合拠点創出事業(経産省)に採択されたことから、大学等が連携し、地域課題の解決に向けたテーマに取り組むなど、関係機関が連携強化を図りながら、新たな取組を創出していく。
※北見工大、北見工業技術センター運営協会、北見市、道等も参画

- テーマ**
- ① 農業における省力化・生産性向上
 - ② スマート水産業

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

テーマ①

- 省力化・生産性向上については、取組の重要性は認識しているものの技術力のある企業が先行している
- スマート農業の取組は活発化しており、国から支援が得られることがありがたい
- 施設・機械の整備による、省力化・生産性向上の貢献度、および費用対効果の検証が必要
- 農業の課題について情報共有や共同での事業実施・課題解決の加速が必要
- 生産性向上の取組を農家に普及させるための先導的な取組を推進する組織・団体の育成

テーマ②

- 水産業のスマート化技術は導入メリットが見いだしにくい

共通

- 無線通信環境の整備や法規制など社会実装には課題あり
- 技術の導入効果が最大限発揮されるように「適切な技術の選択・導入指針」の策定が必要
- 先行する企業と協力関係を築きつつ取組を進めたい
- 技術導入を支える農業経営体としての課題・アプローチも必要ではないか

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)

農畜産業における省力化、生産性向上、スマート農畜産業の研究を推進中

AIを活用した牧草生産の省力化・自動化技術の開発に対し協力を実施

畜産関係の企業と共同研究を実施するための準備中

各種センシング情報の組み合わせにより、可変施肥効果を安定化する手法を開発

ISOBUS対応農作業機の開発実証と技術者育成を実施

土壌改良・精密ロボット農業等生産現場効率向上の技術を学ぶセミナーを実施

「フードバレーとかち」、「十勝バイオマス産業都市構想」、「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」の推進

ロケット射場整備に向けた調査等の支援

今後の推進方向

社会人のリカレント教育にスマート農業等に関する最新の知見を盛り込んだ人材育成プログラムを検討中

企業との共同研究により、お互いにメリットのある技術開発や協力関係を築いていきたい

作業機の利用場面や導入効果、経済性を明らかにする試験研究を計画

省力性・生産性向上に寄与する新品種や省力栽培技術の開発・普及を継続実施

画像処理技術を活用した産業機械の開発に対する相談対応と支援を実施

航空宇宙産業基地の形成に向けて要請活動やロケット射場整備に向けた活動の支援を実施

議題3.道への要望

	要望内容
1	農家が活用できるよう普及支援の拡充、先導的な農家を支援し地域に定着させる事業の拡充
2	現在の事業の詳細と、過去の同事業における具体的な活用事例について情報がほしい
3	地域企業の技術力向上だけでなく支援機関の技術力向上を目的とした施策の検討
4	宇宙日本食の開発技術は防災食への適用も可能で、食品衛生の面でも有益な技術獲得に寄与し、競争力向上に資することから、道の宇宙産業成長産業化推進事業費を「宇宙日本食」にも適用拡大した支援
5	スペースポートの整備に向けては、道の強力なイニシアチブが必要であり、大樹町における民間ロケット射場の事業化支援などの継続的かつ積極的な支援

関連する情報

テーマ①

- i) ドローンによる農薬散布の実証やリモートセンシング技術の普及を促進【近未来技術等社会実装事業/道、更別村ほか】
- ii) ISOBUS対応農作業機の開発【食関連産業省力化事業/とかち財団、道など】
(※ISOBUS:トラクターと作業機間の情報通信に関する国際規格)
- iii) センサーネットワークに基づくロボティクスファームの実証を実施【スマート農業実証プロジェクト/更別村、帯畜大、農研機構、農業改良普及センターなど】
- iv) 農業用ドローンを活用した生育状況の確認など労働力削減の実証【労働力不足の解消に向けたスマート農業実証/JA幕別町、帯広農高、帯広工高】

地域の特徴を生かした取組(宇宙)

- 大樹町を中心とする十勝関係者が、超小型人工衛星打上げ用ロケット「ZERO」の打上げ等に使用する射場の整備・運営を検討するため、「北海道航空宇宙企画(株)」を設立(道からも知事が顧問として就任)

今後の取組の考え方(案)

テーマ①

- 令和2年度の産学融合拠点創出事業(経産省)に採択されたことから、大学等が連携し、地域課題の解決に向けたテーマに取り組むなど、関係機関が連携強化を図りながら、新たな取組を創出していく。
※帯畜大、とかち財団、帯広市、道等も参加
- 支援機関等が中心となり、他地域の先進技術の導入事例の情報収集・提供を行う。

地域の特徴を生かした取組(宇宙)

- 道は、産学官連携体制である「北海道宇宙関連ビジネス創出連携会議」の活動を通じるなどして、地域企業と協力し、関連ビジネスの創出を促していく。

- テーマ**
- ① 一次産業における省力化・生産性向上
 - ② 地域の産学官連携の強化による国資金等の獲得

議題1.テーマに関する今後の地域での進め方など

テーマ①

- ・リモートワークやスマート農業を加速させることは、省力化・生産性向上だけでなく、感染症対策と経済活動の維持の観点からも極めて重要
- ・農業(特に酪農業)は、小規模農家の廃業に伴う農地等の大規模化が図られ、設備投資による省力化・生産性向上は確実に進んでいる
- ・後継者不在の農家や新規就業農家は大型の設備投資が困難であり、省力化、生産性向上は進んでおらず、そのような農家に対する支援策の拡充が必要
- ・地域の先進事例の収集と大学や企業等で研究開発されている内容の地元関係者への情報発信が必要

テーマ②

- ・地域の産学官連携強化による国資金等の獲得ため、IoTの視点に結び付けられるアイデアが欲しい
- ・地域内の産学官金の連携強化と成功事例の収集、情報発信、活用するための取り組み
- ・大学・企業等と地域による連携体で国資金等の獲得を行い、次世代型一次産業を構築すべき

議題2.地域の科学技術や産業振興に資する推進状況と今後の推進方向

推進状況(取組例)

受託研究・共同研究、講演会・セミナー等、政策形成等に関する支援を実施

地域のフォーラムにより、情報収集を実施

LPWA通信技術の活用を見守りと防災面で実施

釧路商工会議所内で、釧路地域水素研究会を設立し、R2のムーンショット型農林水産研究開発事業(国事業)の応募に協力

地域の観光ビッグデータを整理し、活用方法の検討、仕組み構築を実施

環境に配慮した低コストで安全・高品質な牛乳の生産技術の開発を推進

「NoMaps釧路・根室」を釧路・根室管内で開催(テーマは次世代型の地元産業の構築)

「釧路しんきん地域貢献表彰制度」の事業を継続実施

今後の推進方向

研究成果の周知、情報発信、関係者との連携、地域の声の聴取、支援を実施

課題解決を実行するために、釧路ITクラスター推進協会の中に部会及び協議会設立を検討

安定多収な牧草・飼料作物の品種開発と高品質自給飼料生産技術、自給飼料を主体とした乳牛の飼養管理技術の開発を実施

第2回「NoMaps釧路・根室2020」を企画、検討中

議題3.道への要望

	要望内容
1	小さな補助を多く用意してほしい
2	地域の中小企業でも活用可能な申請が平易な支援メニューを新たに創設
3	様々な面で管内自治体の取りまとめに期待
4	昨年度に科学技術振興課で要求した「先端技術活用事業化促進事業費」の再要求
5	R2年度事業は、対象となる業種が限定され、さらに成果をあげることが難しい分野に大きく予算配分されていると考えられる事業があり、そのような事業は再検討が必要

関連する情報

テーマ①、テーマ②

- i) 酪農における生産プロセスの一元管理(圃場、収穫、飼料製造、飼養、生乳生産)のため、ドローンや搾乳ロボットなどのデータ管理システムの実証を中標津町で実施【スマート農業実証プロジェクト/農研機構、道総研酪農試験場など】
- ii) 牛をつないで飼育する「つなぎ牛舎」用の搾乳ロボットによる実証調査を別海町で実施【タイストール(つなぎ牛舎)用搾乳ロボット導入協議会(JA道東あさひ、農研機構、北大)】
- iii) 次世代型ロボットによる視覚・体内から捉える飼養管理高度化システムの開発【道総研酪農試験場など】
- iv) 釧路根室地域鮮度保持技術開発拠点プロジェクトの推進【釧路工業技術センターなど】
- v) 道東産マイワシ・サバ類の消費拡大を目指した高度加工技術の開発【釧路水試】
- vi) マイクロ波による食品異物混入の検出装置及び異物除去装置の研究開発【釧路工業技術センター】

今後の取組の考え方(案)

テーマ①

- 研究機関などが中心となり、産学官が連携して地域の課題に対応した研究テーマの設定や他地域の先進技術の導入事例の情報収集・提供を行っていく。

テーマ②

- 支援機関などが中心になり、他地域の先行事例の情報を収集し、一次産業の課題解決などに向けた研究テーマの設定に取り組んでいく。
 なお、道などは、必要に応じて、R2年9月に採択された、道内の複数の大学や産業支援機関等による産学融合拠点創出事業(経産省)の取組等について情報提供する。